

● 39,098円

去る2月23日、東証株価が39,098円の終値を付けました。これは約34年ぶりのことだそうで、平成元年のバブル期最高値の時代を思い出された方も多いでしょう。

今後の推移については、証券業界トップが概ね海外投資家の日本企業を再評価する動きを歓迎する一方で、経団連会長は「デフレ脱却の好機」と捉え、持続的な成長の実現へ向けて積極的に取り組みたいと、非常に肯定的に考えておられるようです。

世界的に見れば、中国の不動産不況を含む減速経済、海外からの投資の中国からの流出、日本株の割安感、円安による日本の輸出企業の善戦ぶり、海外に比べ政治的に安定する日本、米国経済の好調ぶり等、複合的な要因が重なり株価を押し上げているのかもしれませんが。

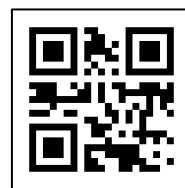
● AIの発展による新たな波

生成AIを含むAIに代表される社会変革の波の全貌はよく見えませんが、過去の情報革命を超える、社会へのインパクトを秘めているようです。例えば、種々の企業が生成AIを活用するため、必要な先進半導体を確保する動きが高まっています。その大手供給元であるエヌビディアが時価総額を2兆ドルまで伸ばすというニュースまで報じられています。

生成AIは、人、物、金、情報、時間といった資源に大きな変革をもたらし、特に人的資源については、人不足を解消するどころか、人を不要にしてしまう脅威の側面もあり、人、企業や社会が今後の目まぐるしい変革にどう立ち向かうか、功罪を併せて問われそうです。

< 3月の送付物 >

- ① 日本一明るい経済新聞 3月号
- ② ビープラッツプレス 最新号
- ③ 「第63回 明るいセミナー」ちらし
- ④ 年会費納入のお願い (該当者のみ)



明るいシステム
倶楽部
ホームページ

< 3月の主な活動予定 >

3/2(土)	気楽な ZOOM サロン(39)	当倶楽部会員専用の交流の場です	20:00~21:30
3/13(水)	役員会議(44)	明るいセミナーの開催準備	13:30~14:40
3/13(水)	明るいシステム検討会議(27)	「明るい活動事例」の収集・分析	15:00~16:00
3/19(火)	第63回 明るいセミナー	大阪産業創造館 4階イベントホール	14:00~16:30

AKS 市民大学 (ZOOM 形式)

3/13(水)	菊池教室(38)	感性を育む和学講座「田の神様」	20:00~21:30
3/23(土)	宮崎教室(42)	「あっ！と驚く問題解決法」	20:00~21:30
3/26(火)	柴原・松居教室(31)	「藤井聡太 八冠」	20:00~21:30

「100歳青春」を目指して明るく、元気に生きるシニアの心得
 ——「円空—旅して、彫って、祈って—」展より——

明るいシステム倶楽部会員 黒田 能弘

去る2月3日節分の日、あべのハルカス美術館にての「円空—旅して、彫って、祈って—」展に行ってみました。パンフにこうある。生涯に12万体の仏像を彫ると誓ったといわれる江戸時代の修験僧・円空（えんくう、1632年—1695年）。円空は各地の霊場を旅し、神仏を彫り、祈りを捧げました。円空が彫った神仏は、あるものは優しい微笑みをたたえ、あるものは迫力のある怒りの相を表し、多くの現代人の心をも惹きつけてやみません。

本展では、「円空仏」とよばれ親しまれている彫刻はもちろん、絵画や文書など円空の人柄に触れることのできる貴重な資料により、その生涯と活動を紹介します。とあります。

私（黒田）はこのところ「いい顔」を探していました。それは、昨年『定年後の居場所』
 著者：楠木 新さんの本を読んでいたからです。それによると、「定年後に充実して過ごすためにはどうすればよいのですか？ 一言で言ってください」との問いに、こう答えておられるのです。それは、「自分が『いい顔』になることに取り組みばいいのです」と。

中年以降にもなれば、自分の過去に、いくつかの人生の節目があったことに思い至る人も少なくないだろう。その時に、自分の役割を変えることや新しい自分を見出すといった経験が「いい顔」につながっていくのだと考えている。と、書かれていたのです。

その「いい顔」のモデルが「円空仏」のすべてに表現されているのです。

どの仏さまも微笑んでおられるのです。私たちオジサン・オバサンは、これらの「微笑みあるいい顔」でいることを心がけたいものです。

追記：何とこの『定年後の居場所』には、我らが同志・“日本一” 明るい経済新聞の竹原信夫さんが、「いい顔」の代表として紹介されているのです。



そしてまた、「いい顔」と言えば、『87歳の私が明かす衰えない処方箋—心・体・命をつなぐまるごと健康学』
 著者・帯津良一氏（医学博士）には、こうあります。 “太極拳はマス・ゲームではない。套路ゆかに沿って己の道を築いていけばよいのである。さらに、しばらく続けて観ているうちに、練功中の皆さんの顔がじつに良くなっているのに気付いたのである。これは練功によって生命の溢れ出ている顔なのだ。そして思い出したのは今でも敬愛して止まない仏教学の鎌田茂雄先生の、太極拳は形ではありませんよ。生命が溢れ出ればよいのです。という言葉である。あれは生命の溢れ出ている顔なのだ。以て冥々すべしとはこのことだ。”

「100歳青春」メッセンジャー 兼 NPO法人高齢者・障がい者後見人の会・代表

◆ 西国三十三所札所巡り旅 (19)

西国 第 17 番札所 六波羅蜜寺
 補陀洛山 六波羅蜜寺 (京都市東山区)
 本尊：十一面観世音菩薩

明るいシステム倶楽部会員：阿久根芳臣

行程：大阪市内から 51 km (阪高、近畿道、第二京阪・鴨川西 IC、川端通、松原通)

東大路の松原から西の六道^{ろくどうちんのうじ} 珍皇寺 辺りが六道の辻と呼ばれ、この世とあの世の交差点にあたる。六波羅蜜寺はそこから更に西に入った処にある真言宗智山派の寺だ。

開基の空也上人が踊りながら念仏を唱え、その声が六体の小仏となって口から現れたといわれる像 (重要文化財) は、歴史の教科書でおなじみだ。空也上人像と云えばコロナ下の令和 4 年春に東京国立博物館で特別展が催されたが連日超満員で予約もできない状態で入場料もすこぶる高かったのに大盛況であった。東京に居た私もまだ巡礼を始める前だったが興味を持ち予約を試みたが全く当たらずで「そうだ、高いお金を払わなくても帰阪の折に京都に行けばいいわ」と気づき、像が 6 月に六波羅蜜寺に帰ったところを参詣した。

六波羅蜜寺には、秘仏の十一面観音像がまつられているが通常は開扉されていない。宝仏殿には、有名な平清盛像、地藏菩薩像、薬師如来像、弘法大師座像など多くの重要文化財が公開されている。963 (応和三) 年、空也上人が建立し、疫病退散を願って十一面観音を安置、西光寺と号し、後に六波羅蜜寺と改めたという。

空也上人は醍醐天皇の皇子などといわれるが父母、郷里も不明でなぞに包まれた人物。

元日から三日まで同寺で開かれる^{おおふくちや} 皇服茶 は、空也上人が 951 (天歴五) 年、京に疫病がはやった時に観音像を車に乗せて市中で薬茶をふるまった、という故事にちなむ行事で結び昆布に小粒の梅のお茶で村上天皇も喫したことから皇服茶と名が付いた。

この辺りは平氏の六波羅第があったところで、鎌倉時代には幕府が朝廷を監視する六波羅探題が置かれたことで有名だ。(寺の南隣に 3 台分の無料駐車場有り)

境内正面

